

F-4 理論食料費の研究 — 各種理論食料費の検討  
お茶大家政 ○横田京 伊藤秋子

目的 各種の理論食料費の算出方法を検討して特徴を捉え、更にそれぞれの算出方法による食料費の値を比較して実生活への適用の資とする。

方法 1 理論食料費の種類 ①人事院の標準生計費 ②都道府県人事委員会の標準生計費 ③総評調査部編「単身・二人・四人世帯の理論生計費」 ④全化同盟「賃上げ要求の根拠とする世帯人員別生計費」 ⑤出石方式(日本家政学会第23回総会報告資料) ⑥伊藤方式「ファミリーサイクルに対応する食料費」 ⑦参考 昭和44年全国消費実態調査による食料費(総理府統計局)

2 年度を昭和44年に限定し、単身、2人世帯(夫婦)、4人世帯(夫婦子供2人)の家族構成を用い、これに上述の6種類の理論食料費を適用する。

結果 1 試算された各種理論食料費を比較すると、人事院、東京都人事委員会、全化同盟の理論食料費は、ほぼ同額を示し全国消費実態調査による食料費に近い値であるが、総評は「賃上げ要求の目標」として独自の積上げ方式で算出し非常に上回る値を示している。同じ「賃上げ要求の根拠」としても全化同盟の理論食料費は、基準に人事院算出の「東京都標準生計費における食料費」を用いる為あまり高額にならず、基準の用い方による差が大きくあらわれている。

2 出石方式は栄養数単価から算出した理論食料費であり、伊藤方式は必要熱量と熱量単価から算出したものとあるが、いづれも栄養基準量をもととして算出しているので、理想的な栄養配分を考慮に入れた理論食料費は実態よりやや高額になる。